

## 食物アレルギーに対する経口免疫療法を受けている皆様へ

牛乳に対する急速経口免疫療法を受けている患者さんが、家庭で維持量を摂取した後に呼吸症状を生じ、低酸素性脳症となった重篤な有害事象が発生したことが、2017年11月14日に国内の施設から公表されました。

当科では、2010年から急速経口免疫療法を、2015年から緩徐微量経口免疫療法を行っています。治療開始時の説明や診療の中でお伝えしているとおり、当科で治療を受けている方の中でも、治療に伴う有害事象として、アナフィラキシーを含む即時型症状は認められます。今回報告されたような重篤な有害事象はこれまで生じていませんが、エピペンを含む救急対応が必要な事例は稀に発生しています。

経口免疫療法は、摂取できるアレルゲン量を増やす効果が得られる一方で、経口摂取に伴うアレルギー症状を生じるリスクは常につきまといます。それを回避するために、いくつかの注意事項を常にお伝えしていますが、安全性を確保するために、以下の点につき再確認をお願い致します。

- ① 摂取後にアレルギー症状が誘発された時の対応方法を、改めて確認してください。重症度に合わせて処方している内服薬、吸入薬、エピペンなどの所在と使い方を再確認し、常に携帯して下さい。
- ② 緊急時に受診できる医療機関、受診のタイミング、受診方法等を改めて確認しましょう。
- ③ 摂取前後の運動、入浴等は症状誘発のきっかけになります。摂取後の安静指示を守り、それを緩めて良いかどうかは外来受診時にご相談ください。
- ④ 強い疲労、感冒を含めた体調不良、喘息症状が不安定な場合は、症状を誘発するリスクが高まります。体調が回復するまでは摂取を中止し、再開時は半量以下など摂取量を減らしましょう。
- ⑤ 喘息症状が不安定な状態は、経口免疫療法のリスクを高めます。予防薬をしっかり使って、喘息症状はできるだけ完全に予防しましょう。
- ⑥ 摂取間隔が不安定になるのは、治療効果が落ちるだけでなく、摂取時のリスクを高めます。決められた摂取頻度（毎日、1日おきなど）をしっかり守りましょう。

※ 疑問な点があれば、アレルギー科メールアドレスまで E-mail にご相談ください。

[allergy-secretary@cd5.so-net.ne.jp](mailto:allergy-secretary@cd5.so-net.ne.jp)

※ 緊急時は、電話でのご相談もお受けします。

※ 緊急受診については、救急科の医師が対応します。

※ この案内と経口免疫療法に関する説明は、アレルギー科の Web サイトをご覧ください。

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/department/allergy/index.html>

2017年11月17日

あいち小児保健医療総合センター アレルギー科